

【分野名：社会科学】

大 学 名	慶應義塾大学
拠点のプログラム名称	市場の質に関する理論形成とパネル実証分析
中核となる専攻等名	経済学研究科経済学専攻
拠点リーダー氏名	吉野直行
<p>《拠点形成の概要》</p> <p>1990年代はじめ以来、日本経済は慢性的な不景気に悩まされ続けてきた。本21世紀COE研究拠点では、そのような「長期停滞」の根本的原因を「高質な」市場の欠如に求め、市場の質の向上のためには何が必要かという問題を、理論的・歴史的・制度的・実証的な観点から、総合的に分析することを目指している。</p> <p>「質」という概念は経営学では長く重視されてきたが、経済学では十分な分析が行われてたとは言えない。特に、市場といふ組織は、経済学の中心的な分析対象であるにも関わらず、これまで、その「質」が取り上げられたことはない。本拠点では、慶應義塾大学が誇る多数の研究者の経済学的・商学的知見を結集し、この新たな研究テーマの解明し、政策立案に関する新たな思想の形成に挑んでいこうとしている。</p> <p>そのためには縦断的パネルデータにもとづく定量分析を必要不可欠な要素と本研究拠点は位置づけており、そのシステムティックな設計・収集・解析を目指している。縦断的パネルデータというのは、多数の経済主体を選び、そのそれぞれについて、経済活動の変遷を長期間にわたって追跡したデータのことで、欧米諸国では古くから集積の努力が続けられてきた。残念ながら、わが国では縦断的パネルデータの蓄積が遅れており、それが「質」といった定量化の難しい経済変数を分析する際のネックとなってきた。本拠点では、広範囲なデータの永続的な収集により、わが国の縦断的パネルデータ集積をリードしていくことを目指している。</p> <p>また、本研究拠点では、一定期間にわたるデータ解析を通じて信頼性を確認できたデータについては公開し、広く内外の研究者の研究に供していく。これにより、本拠点で形成される縦断的パネルデータは、市場の質といふ本拠点の研究テーマを越えて、今後の社会科学の研究に大きな貢献をするものと確信している。</p>	